



地域医療連携 ニュース

TOPICS

- 呼吸器内科の取組み
- 呼吸器外科の取組み
- 小児科の取組み
- 患者さんのご紹介について

地域医療連携室 TEL:045-974-6571
FAX:045-974-4325



呼吸器センター

呼吸器内科の取組み

よこ え たく や
横江 琢也

呼吸器センター 呼吸器内科
准教授 診療科長

昭和大学藤が丘病院呼吸器内科では間質性肺炎などのびまん性肺疾患からCOPDなどの閉塞性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー疾患、肺炎・結核・COVID-19などの感染症、肺癌などの腫瘍性疾患まで呼吸器疾患全般の診療を行っています。

呼吸器内視鏡検査は種々の疾患の細胞や組織の検査ができる重要な検査であり、年に200件を超える検査を行っています。

胸水が貯留するような胸膜疾患では呼吸器外科医とも協力し、局所麻酔下の胸腔鏡検査を行い診断率の向上につなげています。

入院が必要なCOVID-19などの呼吸器感染症患者さんは感染対策された病室や病棟に入院して頂き、当科で診療しています。

悪性腫瘍だけでなく、難治性気胸、慢性膿胸等手術適応のある疾患については、耐術能評価の下、呼吸器外科による手術を行っています。

悪性腫瘍の化学療法や放射線療法は、腫瘍内科や放射線治療科と協力して入院治療・外来治療とも行っています。

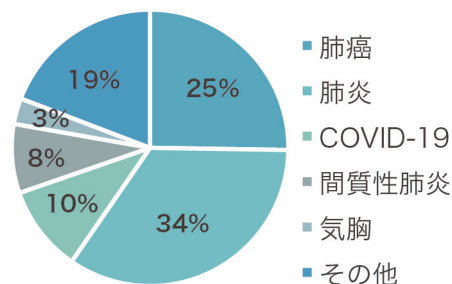
また、生理学検査室の協力の下、呼吸機能検査や6分間歩行試験を行っており、病状の把握から耐術能の評価まで行っています。

慢性呼吸器疾患や入院加療によりADLが低下しリハビリテーションにて回復が見込める患者さんは、呼吸器内科医の常勤が勤務している藤が丘リハビリテーション病院への転院を行い、呼吸器疾患診療と並行してリハビリテーションを行い、ADLの回復を確認し退院しています。

呼吸器疾患すべてに対応し、地域の呼吸器疾患診療に貢献してまいりますので、診療に難渋する呼吸器疾患患者さんは是非当科までご紹介下さい。

急性期の診療が終了した患者さんは逆紹介させて頂くほか、定期的な検査通院が必要な患者さんは2人主治医制という制度も行っていますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2023年度入院患者疾患内訳



検査・治療	2021年度	2022年度	2023年度
気管支内視鏡検査	270	242	245
局所麻酔下胸腔鏡検査	9	2	6
外来化学療法	221	146	155
在宅酸素療法	134	123	158
在宅持続陽圧呼吸療法	119	6	150
呼吸機能検査	1123	1133	1212
6分間歩行検査	120	106	142



呼吸器センター 呼吸器外科の取組み

よし だ つとむ
吉田 勤

呼吸器センター 呼吸器外科
准教授 診療科長

2022年10月より藤が丘病院呼吸器外科に赴任いたしました。それまでは昭和大学とは無縁の人生を歩んでまいりましたが、縁あって当院で從事させていただきます。

当初当院においては誰一人知人のいない環境で孤立無援の状態を覚悟していましたが、昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター外科より1名出向していただき、二人体制で呼吸器外科診療をスタートいたしました。各診療科の先生方、および病院スタッフのご協力をいただき、1年目にして89例の手術実績を築くことができました。その内訳は原発性肺癌のほか、転移性肺腫瘍、気胸・膿胸、縦隔腫瘍など、呼吸器外科領域の主たる疾患を扱ってきました。毎週カンファレンスにて呼吸器外科、呼吸器内科の他、腫瘍内科、放射線科、放射線治療科と治療方針を協議し、術後報告を欠かさず行うことを心がけてきました。

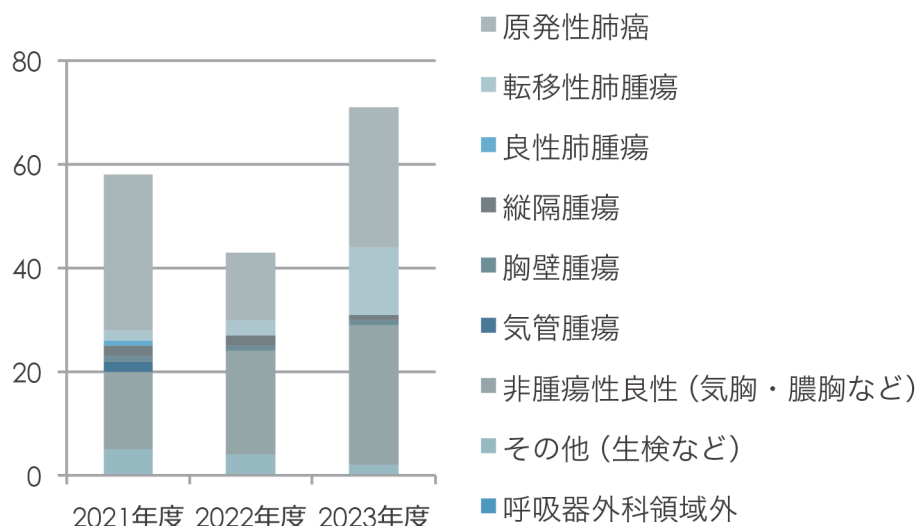
2023年10月からは呼吸器外科は一人体制となり、手術に多少の制限を要する状態ではあるものの、呼吸器内科チームの一員としてともに診療を行うことで、気胸や膿胸等、呼吸器疾患に対する外科治療を要する患者さんに臨機応変に対応できる体制としました。手術に関しては昭和大学横浜市北部病院呼吸器外科、および当院呼吸器内科の先生方にお手伝いいただき、2年目は60例の手術実績を保つことができいております。これまでも完全鏡視下手術を積極的に行ってききましたが、最近では縮小手術に限ってはより低侵襲な単項式手術を導入しています。また最近では形成外科や心臓血管外科の手術のお手伝いをさせていただく機会も多くなり、この歳にして新しい知識と技術を学ぶ貴重な機会をいただいています。

当院に赴任して以来実感しているのは、近隣の皆様より頼りにされている医療機関であるということであり、呼吸器外科としてもその信頼を裏切らぬよう精進いたします。ご紹介いただきました医療機関の先生方には分厚い診療経過報告が届くかもしれませんが、あきれずに目をお通しいただければ幸いです。

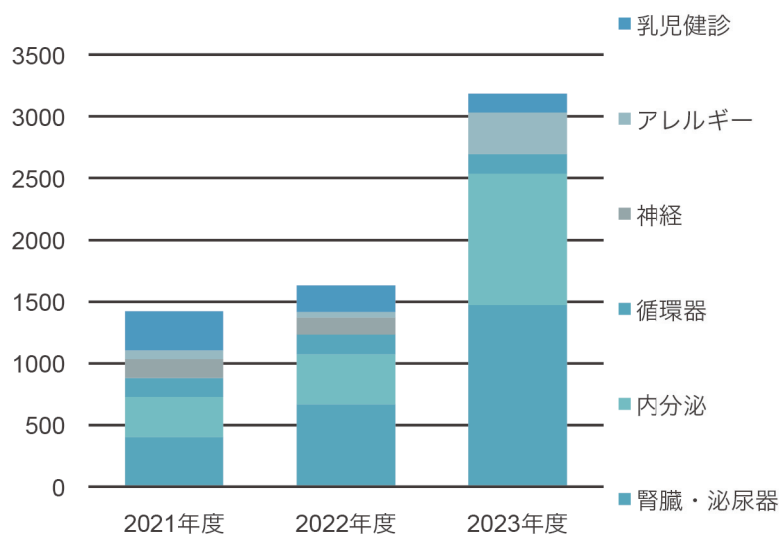
今後も引き続きよろしくお願いいたします。

	2021年度	2022年度	2023年度
延べ外来患者数	458	245	436
延べ入院患者数	563	391	994

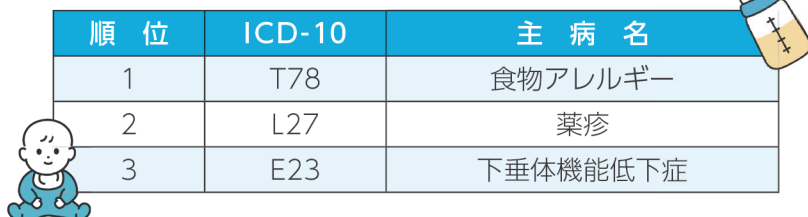
年度別手術件数



専門外来 実患者数



2023年度 小児科疾病分類別 順位 TOP3



順位	ICD-10	主病名
1	T78	食物アレルギー
2	L27	薬疹
3	E23	下垂体機能低下症

小児科では、腎疾患（小児泌尿器疾患を含む）・アレルギー疾患・内分泌疾患を中心に各分野の診療をおこなっております。今回はアレルギー疾患への取り組みをご紹介します。

気管支喘息やアトピー性皮膚炎では、まずは患者さんに疾患とその治療の必要性を理解していただくことが大切です。昨今、重症の患者さんに対し、小児領域においても生物学的製剤や分子標的薬が使用できるようになっており、有効な治療法となっております。当科では、治療に難渋する児に対し、これらの薬剤を導入しております。導入に際し、血液検査やX線が必要となることがありますので、疾患のコントロールが難しく、これら薬剤の導入が必要と思われる場合にはぜひご紹介ください。

食物アレルギーでは、その正しい診断をおこなうことで不要な制限を減らすとともに、摂取可能な安全量の確認をおこなうことが必要です。そのためには食物経口負荷試験が必要となりますが、アナフィラキシー惹起の可能性があります、安全への配慮が必要です。当院では食物経口負荷試験を週2回、入院にておこなっており、本年度もこれまでに100例以上の負荷試験を施行しております。おかげさまで現在多くの患者さんをご紹介いただき検査を実施しておりますが、実際に解除となっている患者さんも多くいらっしゃいます。クリニックにて、自宅での食材の開始の指示や貴施設の外来の負荷試験が難しい場合にはぜひご紹介ください。ハイリスクの患者さんやその後の経口免疫療法が必要となる患者さんは、昭和大学病院と連携して耐性獲得に取り組んでいます。

アレルギー疾患のみならずお困りの症例がありましたら、まず紹介いただき、当院にて必要な検査等をおこなったうえで、適切な施設にご紹介させていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。



こどもセンター

小児科の取り組み

かみ や た ろう
神谷 太郎

こどもセンター 小児科
准教授 診療科長

患者さんのご紹介について

医療機関より当院に患者さんをご紹介いただく場合、下記 2 つの方法による予約が可能です。

※受付時間 月曜日～土曜日 8:30～17:00



電話で予約する：045-974-6571

- 患者さんの情報等を確認させていただき、ご予約をお取りいたします。なお、当日のご予約はお取りしていませんので受診希望の方は上記お問合せ先にご連絡ください。



FAXで予約する：045-974-4325

- 「患者保険情報連絡票」をFAX送信してください。「患者保険情報連絡票」は当院ホームページ「患者さんのご紹介について」のページからダウンロードが可能です。
- 予約状況確認後、予約票兼連絡票をFAXいたしますので患者さんにお渡しください。
- 15分以上経過しても予約票兼連絡票が届かない場合、お手数ですが地域医療連携室までご連絡ください。

当日の緊急性のある患者さんのご紹介について

緊急性のある紹介患者さんの受け入れについて、地域医療機関より地域医療連携室へご連絡ください。直接医師同士でお話しいただくことも可能ですので、必要な際はお申し付けください。

- 時間外（17:00～翌8:30）・日曜日・祝日・創立記念日（11/15）は救命救急センターにつながります。

ホットラインについて

当院では3次救急に対応する救命救急センターの他に、心臓ホットライン、脳卒中ホットラインを設けております。緊急疾患が疑われる際はご活用ください。24時間365日担当診療科医師が対応いたします。

急性心筋梗塞などの緊急疾患が疑われる場合

心臓ホットライン：070-5557-6035

脳卒中など緊急疾患が疑われる場合

脳卒中ホットライン：070-5015-3583

